

令和7年度 山口大学教育学部附属特別支援学校 学校評価書

1 学校教育目標	一人一人の思いや願いを大切に、個性を生かしながら、児童生徒の自立と社会参加をめざす教育の推進 ～自立活動の視点から教育課程をオーダーメイドする～
----------	---

2 本校の使命	学校教育法に基づき、知的発達に遅れのある児童生徒が、社会の中で生き生きと暮らしていく姿を目指し、児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす教育を行う。 ○山口大学教育学部の附属学校として、大学と連携して先導的・実践的な研究を進めるとともに、教員を養成するための教育実習に取り組む。また、大学や地域と連携した教員研修の支援を行う。 ○webを活用した教員研修及び他附属学校園の学校支援の実施により特別支援教育のセンター的機能の強化を図る。また、ヤマミイの一むでの幼児及び保護者支援を行う幼児教育相談等地域支援の取組の充実を図る。
---------	--

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	<p><重点を置いて目指す成果・特色> 【附属特別支援学校の役割】 ○教育研究 『豊かに生きる力』を育む自立活動を基軸とした教育実践』 ○教員養成・教員研修 ○教育実習、介護等体験、大学院生実習、長期研修実習 ○地域の学校教員を対象とした公開研修会の実施 ○大学・地域連携 ○教育学部やまぐち学園への継続的な指導者支援 ○本校教員研修への支援 ○地域貢献、学校支援</p> <p>【自立と社会参加に向けて】 ○めざす子ども像 ○興味関心を生かす子ども ○自己肯定感を高める子ども ○自主性・主体性を獲得する子ども ○社会性を獲得する子ども ○チャレンジ目標 ○あいさつ ○マナー * 相手を意識した行動 * 相手を尊重した行動</p> <p>【特別支援学校のセンター的機能の充実】 ○webを活用した教員研修 ○オンデマンド配信／アーカイブ配信を取り入れたハイブリッド方式による研修会実施 ○オンラインによるケース検討会の開催 ○幼児教育相談 ○ヤマミイの一むでの幼児及び保護者支援 ○地域支援 ○人や地域をつなぐ取組</p> <p><取り組むべき課題> ○業務改善 ○時間外勤務の削減 ○働き方の意識改革 ○チームでの取組強化 ○カリマネの充実 ○情報発信 ○各種たより ○ホームページ ○Webの活用 ○特色ある学校づくり ○教職員人材育成 ○教育実習の充実 ○CSの連携・協働 ○児童生徒定員確保</p>
------------------------------	---

4 自己評価

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育活動を行い、個々の能力の伸長を図る。	○自立活動の指導を基軸とし、一人一人の良さや強みを生かした教育活動を展開する。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4	○教職員は、自立活動を基盤として一人一人の良さや強みを生かした教育に取り組もうとする意識が高い。しかし、保護者の中には懐疑的な見方をされている方もおり、授業担当者のねらいが十分に理解されていないことが考えられる。	保護者のアンケートから、学校は「児童生徒の能力を伸ばしている」と思われている。その一方で「良さや強みを取り入れた授業や支援」においてもう少し児童生徒の良さや強みを生かして能力を伸ばしていけるのではと思われている。具体的な良さや強みを支援計画等に反映して授業や支援を継続していくと保護者に伝わっていくと思われる。	B
		○個別の指導計画の適切な作成及び活用により、各教科や領域等において、ねらいや評価を明確にした授業を行う。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4	○個別の指導計画については概ね活用できていると考えられるが、今後さらに「ねらい」と「評価」を明確にした活用を進めていくことが望ましい。また、保護者に対して授業のねらいを伝える機会(参観日など)を設けることも有効ではないかと思われる。		
生活健康	児童生徒が明るく楽しく学校生活を送ることができ、個性を生かす。	①児童生徒の一人一人の実態に応じた「あいさつ」習慣の定着を図る。 ・「あいさつ」標語「運動(平川地域コミュニティ推進協議会) ・児童生徒会によるあいさつ運動 ②教員間や保護者との情報共有を密に行い、児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を作る。 ③児童生徒や保護者が相談しやすい環境を作る。 ④児童生徒会活動の充実	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4	○児童生徒の実態に合ったあいさつの仕方を指導する教師が増えたという肯定的な意見があった。児童生徒にあいさつを促すだけではなく、全教師が児童生徒の実態に合った指導や関わり方を意識する雰囲気づくりに継続して努めた。 ○今年度より「こころの健康観察」と題して、日々の児童生徒の気分や相談の希望の有無等を把握する取り組みを開始した。全教師が児童生徒一人ひとりの心身の様子を共有できる仕組みを整えることができた。一方で、児童生徒の人権意識を高める必要があるという意見もあったため、継続して人権意識に対する指導を行っていく必要がある。 ○教育相談を年3回実施。学級担任を中心に、学部全体で対応。SCと生徒との面談機会を設定した。自分の悩みを他の人に話す方法を学ぶ機会にすることができた。 ○ふようまつりは、生徒主体で企画運営を実施し活動を行うことができた。	あいさつについては、教師側からの評価が低いという事実を児童生徒にどのように意識させていくかという視点から取り組みを検討すると良い(外部評価を伝える等)。また、どのようなあいさつが好ましいのかを児童生徒に伝えるような働きかけを繰り返す、積み重ねて指導していく必要がある。	A
		①インターネット等を使用した防災対策についての情報収集を行う。 ②様々な状況を想定した防災訓練を実施する。(不審者対応避難訓練、引き渡し訓練、防災訓練) ③実際の生活の場を捉えた安全教育、防災教育を実施する。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4	○防災訓練を計画的に実施できた。緊急時の引き渡し訓練では、昨年までの想定を変更して、新たな想定のもと訓練を実施した。今後も多様な想定での訓練を計画していきたい。不審者対応避難訓練では、警察や少年安全サポーターの方より教師向けの不審者への対応の仕方についてレクチャーを受けることができた。	どのような災害や事件が起こるかわからない時世であるからこそ、多様なシチュエーションでの訓練が必要である。上手く避難することを目的にするのではなく、避難上の配慮点等に注目しながら訓練を行うと良い。	A
		①児童生徒の実態把握を行い、学部や担任と連携しながら、健康に関する学習を行う。 ②保健体育専門部を中心に、児童生徒の心身の健康、保健衛生に関する取り組みを行う。 ③性に関する教育について教材研究、教材作成、指導実践の蓄積を行う。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4	○全国小学生はみがき大会に参加し、口腔衛生に関する保健指導を行った。 ○昨年度に引き続き、保健体育専門部で長期休業で使用する歯磨きカレンダーを作成し、口腔衛生の意識付けを行った。 ○性に関する指導については、年間指導計画の改善に着手している。今後は計画をもとに実践の蓄積を行いたい。	小一～高の教師間での連携を大切にしながら、指導・支援にあたりと良い。学部を超えて積み重ねていくことが重要である。	A
進路	児童生徒の自己実現に向けたキャリア教育の視点を取り入れた授業作りを行う。	①キャリア教育の視点を取り入れた授業実践を行う。 ②定期的に、各授業または学部で取組内容と状況の振り返りを行う。 ③今年度の取組を来年度の年間計画の作成に生かす。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4	○各学部のキャリア教育に沿った授業実践を行うことができた。 ○分党内、学部で内容に関して話し合うことができた。 ○行事は今年度と同等で考えていき、新しい制度等の教員への周知を図っていき、情報を共有する。	高等部だけではなく、各学部の進路行事について発表する機会をつくる。	A

指導	保護者の参加できる研修会等を企画し、保護者への情報提供を行う。	○アンケート等により、保護者のニーズを把握し、進路に関する保護者研修会等の情報発信を行う。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	3 ○進路行事を映像に残し、時間的に進路行事に参加できない保護者のため参観日や懇談会に合わせて流した。 ○高等部1年生、2年生の進路懇談会を行い、関係機関との情報共有に努めた。	保護者にとって必要な情報は、学部ごとに違っていることがある。いろいろな具体案はあるがまずは、持続可能なことから取り組むとよい。進路行事の映像を参観日や懇談時に流す。外部施設や事業所より講師を呼ぶなど考えられる。	B
発達支援	特別な支援を必要とする幼児に小集団での体験的な環境を提供するとともに、その保護者に対して発達支援、療育相談、就学等についての情報提供を行う。	○ヤマミイの一むの取り組みに関して、利用者の満足度を高めていく。 ・ヤマミイ一むの運営 ・参加幼児の実態把握、支援計画の作成 ・ケース検討会の定期的な実施 ・大学との連携 ・参加幼児の在籍園との連携 ・保護者相談・ペアレント・トレーニングの実施 ・効果的な情報発信	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4 ○年間の実施回数を減らしたが、自然体験活動を多く取り入れ充実させることができた。 ○参加幼児の在籍園と連携し、幼児の実態把握に努めるとともに、個別の支援計画を作成し支援の充実を図った。 ○山口大学の3名の講師を招き、年間4回の保護者相談会を実施した。幼育、特別支援、心理それぞれの分野の意見を聞く機会を設定できた。 ○活動内容が分かりやすく、保護者が手に取りやすいリーフレットを作成し、関係機関へ配付した。今後、校内外の関係者に向けて情報発信の機会をさらに広げ、ヤマミイ一むの認知向上を図っていく。	新たに作成したリーフレットは、子どもの活動内容が分かりやすくなった。参加者獲得に向けては、子育てサポートセンターへの配付や、児童発達支援事業所、相談支援員との連携が有効なのではないか。ヤマミイ一むの保護者アンケートでは、多様な体験ができる良さや、充実した支援体制への肯定的な意見があった。	A
発達支援	附属学校園のニーズに応え、特別支援教育の視点から各学校園を支援する。	○附属学校園に関して、巡回訪問や保護者相談、校内委員会及び園内委員会の出席、助言を行う。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4 ○月に1回程度、附属学校園を訪問し、幼児児童生徒の観察や教師への気付きのフィードバックを行った。附属幼稚園では園内会議や発達相談会において助言を行い、附属山口小学校では支援委員会に参加するなど、特別支援の視点から支援を行った。今後は、各学校園のニーズを的確に把握し、より効果的な支援につなげていきたい。	支援対象児童生徒の変化を客観的に伝え改善に繋がっている点や、支援の手立てに関する具体的な助言が評価された。一方で、訪問の目的や意義が分かりにくいとの意見があり、支援内容の明確化が課題である。	A
情報	GIGAスクール構想の実現に向けICT機器の活用を推進する	○各学部で一人一台タブレット型端末を活用した授業を実践する。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4 ○アプリ等の相談や導入に迅速に対応し、授業で使用しやすい環境を整えることができた。外部講師による研修では、生成AIや多様な特性に応じた教材活用について学び、全教員がICT活用に向けて意識を高めることができた。	生成AIの積極的な試行や、アナログとデジタルのバランスを重視する意見が出された。附属学校としての強みを活かし、格にとられない自由で先進的な活用に挑戦していく必要がある。	A
研修	自立活動の指導の充実・強化を図る。	○自立活動の個別の指導計画の立て方について全校で共通理解を図り、学部や学級で検討して作成する。また、年度途中に見直しを行い、より活用を目指す。 ○年2回の研修会を開き、県内外の教員と本校の実践を共有し、互いに学び合う場を提供する。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4 ○全校研修をとおして自立活動の個別の指導計画の作成手順について共通理解を図り、学部や学級での検討を経て、一人一人の指導の充実につなげることができた。 ○7月には対象を全国に広げて本校の実践共有や座談会を行い、より広域的な視点で学び合うことができた。1月に行う授業づくり研修会においても、教員の指導力や専門性向上に寄与する充実した会となるよう取り組んでいく。	研究成果を公立学校へ還元してほしい。昨年度からの課題である「地域のニーズ把握」を継続し、1月の研修会も含め、地域の先生方が日々の実践に取り入れやすい発信の在り方を模索していく。	A
教育実習	教育実習生の主体的、対話的で深い学びのための系統だった指導体制を構築する。	○昨年度の実施状況やアンケートをもとに、以下の課題に対する改善に取り組む。 ①基本実習とオプション実習での指導案作成について、教員間で再確認し、共通理解する。 ②授業検討会の進め方の充実を図る。 ③参加実習の実習内容の充実を図る。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4 ○指導案作成において、指導案の様式や主眼と評価の整合性について教員間で確認し、共通理解を図った。指導案様式に沿って、実習生に指導を行うことができた。 ○授業検討会の進め方を学部間で共通理解を図り、実習生に事前に伝えた。実習生同士で査定授業を参照できるように日程調整を行っていく。 ○質疑応答の時間を十分に設けたことにより、実習生からの主体的な質問を促すことができた。行事関係の環境整備について学部間の共通理解を図ることで実習内容を充実させることができた。	教育実習生に対して、指導案様式に沿った指導案作成や授業スタンダードに関する指導を行っている。指導案作成、授業スタンダードの指導は必須事項であるため、この2つを軸として、教育実習生に対する指導体制の構築をしていくことが必要であると思われる。	A
開かれた学校づくり	児童生徒一人ひとりの自己実現と社会参加をめざし、社会と連携した開かれた教育過程を推進する。	○地域や山口大学、外部機関と連携した学習活動を実践する。 ・学校間交流 ・専門性の高いゲストティーチャールの招へい ・コミュニティルームの活用 ・地域行事や地域施設の活用 ○学校見学説明会や授業参観、懇談会等を設定すると共に、学校だよりやホームページ、インスタグラム等を活用して、本校のことを幅広く情報発信する。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4 ○数年ぶりに中学部も対面交流を実施。高等部も西京高校と教育効果の高い交流学習を継続している。 ○大学との連携による各学部授業やALTに加え、本年度はサッカーやラグビーの外部講師を招き運動に親しむ機会を多くもてた。 ○なごみカフェの開催により、地域や外部の方が来校する機会となっている。平川地域とも良好な関係で、「本物と触れ合う会」や平川まつり等で子ども達への教育効果を上げている。 ○年間通した活動の精選が必要である。	学校間交流においては、お互いにとって効果的かつ無理のない形で継続していくことが大切である。 なごみカフェや本物と触れ合う会、あいさつ標語等で地域のかかわりも良好である。地域の公共施設等も学習の中で活用できると良い。 地域の学校園には丁寧な本校の行事等を案内し、日頃から知ってもらっておくと良い。	A
			学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4 ○学校説明会は、各市町の教育支援委員会実施時期までに、できるだけ7月までに実施するのが望ましい。説明会への参加者確保については課題。 ○参観日や行事等では、本校の保護者の必要な情報が発信できるように努める。 ○HPやインスタグラムの充実について、手続きをスリム化して全校体制で取り組めると良い。	ネット時代なので、ホームページやインスタグラムを充実させて発信すると良い。	A

業務改善	全教職員が参画し、組織的に業務改善を推進する。	○学校運営組織の適正な人数配置と、学校行事・学部行事の見直し、分掌業務の精選、ICTやAIの活用等による、業務のスリム化と効率化を図る。	学校評価アンケートによる関連項目の肯定的な回答が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	2	○学部や分掌の人員配置については、ほぼ適正であったと捉えている。 ○各分掌において、少しずつ必要な業務の見直しを図っている。学部、分掌行事において、毎年実施する行事と年次計画でよい行事を整理することで、スリム化していきたい。 ○研究部を始め、全校において、少しずつAIを使った業務の効率化が図られつつある。教員の研修等も実施しながら、より効果的、効率的に業務が進められるように推進していきたい。	学校行事や学部行事等の整理、見直しが毎年行われてきているので、検証を充実させることが必要である。 AIの活用が分掌業務等で進んできているが、組織的な活用として機能させるための手立てが必要である。	B
		○年間の平均時間外業務時間を前年度比5%削減、有給休暇10日以上取得となるよう業務改善を推進する。	年間の平均時間外業務時間について前年度比5%削減できた 年間有給休暇取得日数の達成率が、 4:80%以上であった。 3:70%以上80%未満であった。 2:60%以上70%未満であった。 1:60%未満であった。	4	○11月末時点で平均時間外業務時間前年度比で-18%となっており大幅な削減がすすんでいるが、1月から3月までは研究会や各年末の評価、事務処理、引継ぎなどで時間外業務時間が増加する傾向にあるため、注視したい。 ○有給休暇取得日数は平均10.8日であった。次年度の変形労働の勤務カレンダーの改善につなげたい。	平均時間外勤務時間が11月末時点で前年度比21%減となっており、業務改善が進んでいると考えられる。 働きやすさと教職員の健康を第一に勤務カレンダーの改善が必要である。	A

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

<p>各項目において、重点目標の達成に向けて具体的方策に沿って実践を行い、概ね成果を上げることができたが、部分的な課題も残っている。今年度、重点を置いて目指す成果・課題について、主な成果及び課題は以下に示すとおりである。</p> <p>【附属特別支援学校の役割】</p> <p>○教育研究 成果:前年度までに3年次計画で行った「自立活動を基軸としたカリキュラムモデルの開発」の検証。自立活動と各教科等の関連を明確にした授業づくり。集合型研修会開催による、研究成果の提供。Webによる情報提供。 課題:自立活動の視点を踏まえた授業づくりの定着化。教員の専門性の向上。地域ニーズの把握とそれに基づく研究内容の見直し。</p> <p>○教員養成・教員研修 成果:教育実習生の指導における評価項目の見直し。年2回の授業づくり研修会による現場教員の専門性の向上に寄与。大学院生及び長期研修生の学びの場の提供。 課題:実習指導等を行う教員の専門性の向上。現場のニーズに基づく研修内容の設定。</p> <p>○大学・地域連携 成果:近隣校との交流学習。高等部ショップの大学や地域での開催。地域からの「本物と触れ合う会」への支援。大学院生の研修の場の提供と、本校との研修実践の共有化。 課題:地域との相互交流の活性化。効果的・効率的な地域への情報発信。</p> <p>【自立と社会参加に向けて】</p> <p>○めざす子ども像 成果:高等部生徒の外部検定・競技会等への積極参加。小・中・高におけるキャリア教育の充実。地域資源を活用した教育実践。 課題:地域連携や地域資源を活用した教育活動の計画的な実践。不登校及び不登校傾向のある児童生徒への指導・支援の継続及び充実。</p> <p>○チャレンジ目標 成果:個に応じたあいさつ指導についての教職員の意識改革と共有。外部と連携した身だしなみ教室の実施。 課題:一人一人に応じた指導目標の明確化や学部間の連携、保護者との共有および一般化。</p> <p>【特別支援学校のセンター的機能の充実】</p> <p>○webを活用した教員研修 成果:夏季公開研修会への参加者増(昨年度より、案内を送付する地域の拡大による県内各地からの参加)。参加者の声を拾う座談会の実施。 課題:ニーズに応じたテーマ設定や座談会グループング。</p> <p>○幼児教育相談 成果:ヤマミユの一む参加者による高評価。山大幼児教育講座との連携による活動の充実。山大心理学院生の実践による学びの場の提供。附属幼稚園との連携。 課題:継続的な定員確保(特に年長児)、市幼児通級との連携及び区別化。附属学校園との連携の在り方。</p> <p>○地域支援 成果:園内支援委員会への参画、スクリーニングなど幼稚園への支援(要請による)。公立中学校や県立総合支援学校への研修講師。山口市教育支援委員会への出席。 課題:地域のニーズの把握と本校の役割についての情報発信。</p> <p>【業務改善】</p> <p>成果:時間外在籍等時間の削減。 課題:分掌部長の業務負担の軽減。勤務カレンダーの見直しに伴う教員の疲労感の軽減。</p>

6 学校運営協議会委員の意見をもとに 次年度重点的に取り組みたい内容

<p>【附属特別支援学校の役割】</p> <p>ニーズの対象者や目的を具体的に把握した教育研究を遂行すると共に、ターゲットとなる対象者のニーズに応じた研修会を開催する。</p> <p>【自立と社会参加に向けて】</p> <p>地域や関係機関と目的を共有し、互いの連携が運動に高まるような取り組みを行うことによって、児童生徒のより効果的な社会参加の実現をめざす。</p> <p>【特別支援学校のセンター的機能の充実】</p> <p>本校の取組についての幅広い情報発信や、相手のニーズに応じた情報提供の効果的・効率的なあり方を模索する。</p>
--